

おだがいさま

odagaisama

第 17 号
平成 20 年
7月15日発行

「今から二百年も昔の
ごどだども…」
大型紙芝居の上演です！

わたしのまちのコミュニティワーカー(P2~P3)

平成19年度事業報告および決算報告(P4)

サマーチャレンジ参加者募集(P5)

情報掲示板(P6)

図書ボランティア 羽黒出羽路会

平成6年に結成され、羽黒コミュニティセンター内図書室の本の整理のほか、小学校や福祉施設等で大型紙芝居の上演をしています。羽黒福祉センターでも生きがいデイサービスやサロン活動などにボランティアとして協力していただき、参加者から大変喜ばれています。

内容は羽黒山の開山についてなど地域の歴史にちなんだものが多く、子どもから大人まで楽しむことができます。その作品は高く評価され、山形県自作視聴覚教材コンクール最優秀賞ほか、数々の賞を受賞されています。

わたしのまちの コミュニティワーカー



第一学区社協
わかくさ かおる
若生 香さん

平成18～19年度の2年間、第一学区社協のコミュニティワーカーとして活動。現在は、事務局の一員として学区社協を支えている。



第三学区社協
くりもと
しおり
栗本 順子さん

第三学区の交流会食ボランティアとして学区社協の事業に携わり、平成19年9月からコミュニティワーカーとして、活動を始める。月・水・金曜日にコミセンで勤務。

鶴岡市社協では、少子・高齢化や、地域のつながりの希薄化によって発生する地域の福祉問題や、生活課題の解決に向け、平成17年度から、モデル学区・地区社協にコミュニティワーカーを配置しています。

住民一人ひとりが福祉に関心を持ち、自ら行動するようなまちづくりの実現を目指し、学区の住民で実際にコミュニティワーカーの活動をされた若生さん、栗本さんのお二人からお話を伺いました。

出発点は地域の方との 関わり

「学区内の町内会で困っていることや抱えている問題を良い方向にもっていかけるよう手助けをする役割です。」とコミュニティワーカーについて語るお二人。まずは、どのようなことに困っているかを聞くことから始まると言います。

若生さんは、「日常的な活動の中で町内会組織とつながりをつくり、コミュニケーションをとることを大切にしてきました。また、各町内会ごとに『地域座談会』を開催し、町内会長や役員をはじめ様々な方から問題点や課題を聞いています。」とのこと。

そして、「私は、地域の方々がコミセンに来た時、雑談を交えて、困っていることをお聞きしています。また、お茶のみサロンや交流会食会、介護予防教室などに参加することで、様々な課題が見えてくることもあります。いろいろな所に入って、聞いてみないと実際に三学区で何を必要としているかが見えてこないのです、積極的に地域に出ていくことを心がけています。」と栗本さん。

地域住民と実際に関わり、お話を重ねていく中で、それぞれの学区で抱えている問題や解決すべき課題が見えてきます。

ともに考え 解決方法を探る

コミュニティワーカーは、見えてきた課題をもとに、地域の特色をいかして、コミュニティ組織、民生児童委員、そして、市社協や行政などのさまざまな機関や関係者と連携しながら、地域住民とともに解決の方法を探ります。

そんな中、第一学区では、ゴミや野良猫に関すること、冬期間の除雪について住民の方々が困っているということが分かりました。そこで第一学区社協では、平成十八年度から、中学生を中心にボランティアを募集して、学区内の一人暮らしの高齢者などのお宅の除雪活動を行うこととしました。また、この取り組みをコミュニティワーカーが座談会などで紹介したことによって、活動が広がりを見せ、今では第一学区社協の恒例の事業として定着し、除雪を受けたいお宅の方や町内会からも大変喜ばれています。

企画・実施する

サマーボランティア

夏休み期間の小・中学生を対象に学区内のお茶のみサロンやサークル、福祉施設などでのボランティア体験を行うイベントです。



介護予防教室

在宅介護支援センターなどと連携しながら、介護予防のための体操やレクリエーション等を行う場です。



除雪ボランティア

中学生除雪ボランティア隊による一人暮らし高齢者宅の除雪活動です。



地域の課題を聞く

地域座談会



町内会単位で、公民館や社務所に集まって町内の福祉問題・生活課題について自由に意見を話し合います。

お茶のみサロン



町内会や老人クラブが主体となり、気軽に集い楽しく過ごす場です。ちょっとした会話の中から参加者の悩みに触れることができます。



コミュニティワーカーとしての思い

最後に、コミュニティワーカーとして活動してみて感じていることをお聞きしました。

若生さんは、自分自身も、地域の方も、始めの頃はコミュニティワーカーという名称に慣れず、お互いに戸惑いがあったと当時を振り返りま

一方、栗本さんは若い方の地域コミュニティに対する関心が希薄化していることを問題視しています。町内会の活動も高齢の方が務めている場合が多いそうですが、徐々に世代交代していかなければ町内会が存続していきません。町内会の活動を子どもの時から見ていることが重要だと栗本さんは考えます。家族や近所の人が地域のために活動する姿を見て、助け合いの心が根付き、自然と活動に参加できるようになると言います。今年度、第三学区社協では、夏休み期間の小学生を対象に、福祉スクールを企画しています。スクールの多くの講師を地域住民とすることで、地域の中でお互いに助け合える「福祉の心」を育むきっかけづくりとなることを目的としています。

す。それでも「関係団体との連絡係です。気軽に困っていることを教えてください。」と伝え、活動していく中で、今は、「行事に快く参加してもらったり、問題や課題について『自分のまちでも考えてみよう』と言われるようになりました。二年間で築いてきた地域との関係や、今までやってきた事業をこれから継続し、地域に貢献していきたいです。」とお話しています。

栗本さんは「私は、住み慣れた所で家族とともに一生暮らせることが一番の幸せだと思っています。そのためにも、一人ひとりが地域コミュニティのことを考えてほしいです。例えばお茶のみサロンをどの町内会でも開催することができれば、欠席している人を気にかけたり、身近なところから、みんなで見守りができると思います。コミュニティワーカー一人では出来ないことも多いですが、学区みんなの意識が高まり、町内会で自主的にそれぞれの地域福祉活動ができれば、年をとっても地域の方々と明るく楽しく生活できると思います。」と語ってくれました。

お二人の思いは、地域に暮らす方々とともに、『おだがいさまのまち鶴岡』を支えています。

平成十九年度 事業報告および決算報告

五月二十七日の理事会と五月二十八日の評議員会で平成十九年度の事業報告と決算報告について承認されましたので、その主な内容をお知らせします。

事業報告

昨年八月に日本地域福祉研究所、鶴岡市と共催で「第13回地域福祉実践セミナー」を行い、十一月には六地域の福祉センター共同事業「第1回福祉のつどい」を開催し、『地域の福祉力』の向上を図ると同時に、事業をととして市民の方々から社協への理解を深めていただくことができました。

第1回『福祉のつどい』



福祉功勞者の表彰、講演、社協事業の紹介などを行いました。

地域福祉事業

学区・地区社協との連携や地域福祉委員会の開催、集落の実態調査やアンケート調査等を行い、地域の現状や課題の把握に努め、また、第五学区社協の「地域福祉活動計画」策定の支援を行うなど、住民主体の地域福祉活動の推進を図りました。

ボランティアセンターでは、専任職員を配置して土曜日開設を実施するなど機能の充実を図りました。

高齢者福祉事業

利用者の立場に立った質の高いサービス提供に努めるため、社協主催の研修会を開催し、他事業所からも百名ほどの参加がありました。

また、通所介護事業では、社協内全てのデイサービスセンターで、サービス提供時間を六時間以上八時間未満までに延長したり、介護プランセンターたかだてを開設するなど、サービスの拡充を行いました。

障がい者福祉事業

障害者自立支援法によるサービスへ事業移行するため、利用者や家族から理解を深めていただくよう努め、個別支援計画を策定するなど、円滑に移行できるよう対応を図りました。

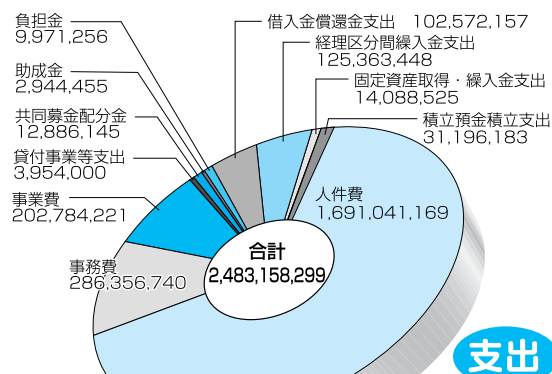
「もみじが丘」では、移行準備として身障者用トイレの増設や廊下の拡張などの施設改修工事を行い、個別ニーズに即した支援が可能となりました。

児童福祉事業

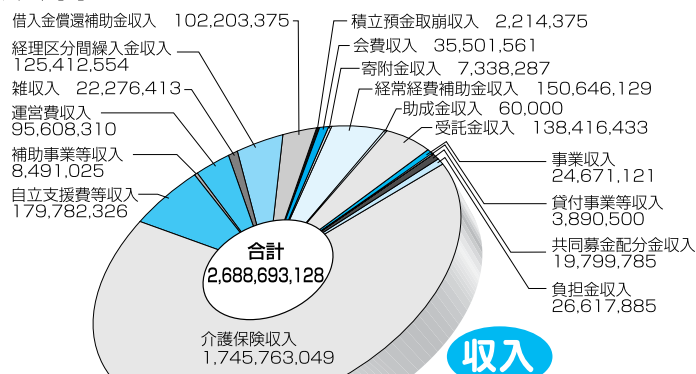
地域と連携しながら、子どもの健全育成のために、安全で安心できる遊び場の提供や、育児相談・保育園での一時保育の実施など子育て家庭への支援を行いました。

父親への子育て参加の啓発活動として「お父さんのための勉強会」を行ったり、「育児講座」・「体験講座」・「ワンポイント講座」や、「幼稚園保育園説明会」などを開催し、情報の発信にも取り組みました。

一般会計



支出



収入

特別会計（授産施設事業）	
収入	51,110,907円
支出	35,506,354円

決算報告

単位：円

サマーチャレンジ

参加者募集

今年も8月1日(金)～31日(日)の期間で、
『サマーチャレンジ』が開催されます!

小・中学生を中心に、高校生、大学生、一般の方々を対象に、ボランティア活動として、ボランティアへの理解と普及を図るために実施します。

主なボランティア活動メニュー

- ★高齢者や障がい者施設でのボランティア
- ★保育園、児童館、学童保育所でのボランティア
- ★読み聞かせボランティア
- ★障がい者等用駐車場塗装ボランティア
- ★高齢者宅への在宅訪問
- ★お茶のみサロンへの参加 など



鶴岡・藤島・羽黒・
櫛引・朝日・温海の
各福祉センターでは多彩な
ボランティア活動メニューを
用意しています。

たくさんの皆さんの
ご参加お待ちしております!

※活動内容や日程、申込み方法は各福祉センターで異なりますので、詳しくは、お近くの福祉センターまでお問合せ下さい。

大山保育園

平成
19
年度

思い出

大山児童館

昨年度の実施の様子と
参加者の感想をご紹介します

ボランティアは受ける側だけ
でなく、ある側にも幸せを与
えてくれるものだ実感でき
ました。

指導員として子ども達の安全
を見守りながら一緒になって
楽しめたので良かったです。

グループホーム なずな

大事なことは、高齢者とボランティア、職員の
みんなが楽しみ協力しあうことだと思いました。

スナップ



情報掲示板

「平成20年岩手・宮城内陸地震義援金」募集

●受付期間 平成21年6月16日(火)まで

●義援金の受入れ

(1) 振込みの場合の取扱金融機関

金融機関名	支店名	口座番号	加入者名
ゆうちょ銀行	—	02260-1-16390	社会福祉法人 宮城県共同募金会
七十七銀行	県庁支店	9099964	社会福祉法人宮城県共同 募金会 会長 飯岡絹子

※郵便局窓口での振替手数料は、募集期間中は無料になります。

※通信欄に「岩手・宮城内陸地震」と明記してください。

(2) 現金書留による送金

〒984-0051 宮城県仙台市若林区新寺一丁目4番28号

社会福祉法人 宮城県共同募金会

※郵便局窓口で義援金の送金を希望される場合は、郵便料金は免除となります。

●義援金の配分

義援金配分委員会で決定し、被災者へ配分します。

6月14日に発生した「平成20年岩手・宮城内陸地震」で被災された方々への支援を目的に義援金の募集を行います。

苦情解決にあたる第三者委員について

鶴岡市社会福祉協議会では、本会が提供している福祉サービスの質や利用者の満足度を高めるため、利用者及び家族等からの苦情の解決に努めております。

苦情は、各福祉センター・各施設および、第三者委員が受け付けています。

鶴岡市社会福祉協議会の提供する福祉サービスの苦情解決にあたる第三者委員の方々です

氏名	住所	電話番号	摘要
瀬尾 千代子	鶴岡市みどり町22-20-1	24-5965	元介護職員
魚住 百合子	鶴岡市美原町22-22	23-3303	民生委員・児童委員
阿 部 秀	鶴岡市常盤木字木原96	57-3002	主任児童委員
柳 沢 卓	鶴岡市五十川丁123-1	45-2253	元中学校校長

福祉の仕事出張相談会のお知らせ

県内のハローワークを会場にこれから福祉の仕事に就きたい方・関心のある方の質問や相談にお応えします。

●期日 平成20年10月21日(火)

●時間 午前10時30分～午後3時

●場所 ハローワーク鶴岡 1階会議室

●内容 *求職登録の受付や求人情報の提供

*福祉系資格取得に関する相談

*福祉の仕事に関する相談全般

●問合せ 山形県福祉人材センター

☎023-633-7739 F A X 023-633-7730

ご寄付ありがとうございました

みなさまのご厚志に心より御礼申し上げます。
(平成20年4月21日から平成20年6月20日までのご寄付を掲載しています)

★一般社会福祉事業へ

◎鶴岡福祉センター

斎藤枝美子 様 タオル100枚
ニューナイス歌謡会 様 30,000円
村上愛歌会 様 50,000円
匿名 20,000円
鶴岡建設(株)親善ゴルフ大会 様 100,000円

◎羽黒福祉センター

匿名 200,000円
羽黒町ゲートボール愛好会 様 20,000円
やまびこ会 様 20,000円

◎朝日福祉センター

匿名 100,000円

◎温海福祉センター

水野新徳 様 50,000円
佐藤市郎 様 30,000円
BMW Motorrad 代表取締役 大友克人 様 203,143円
鈴木吉雄 様 50,000円

★鶴岡老人福祉センターへ

小山武雄 様 フットマッサージャー

★高齢者福祉センターおおやまへ

竹田理英 様 食器100点
小野寺千枝 様 吸引器、加湿器

★デイサービスセンター愛寿園へ

温海地域婦人会 様 タオル200枚

★障がい福祉サービス事業所もみじが丘へ

本間秀子 様 着物布地
鶴岡市職員労働組合温海支部女性部 様
ウエス用古着
温海地域婦人会 様 タオル100枚
あつみ温泉女性会 様 タオル80枚

◎ほっと「ラム

「あったかい」

「おじいちゃん・おばあちゃんがありがとうって言って手を握ってくれた。その手があったかった」

昨年度、サマーボランティアに参加した小学生達の声です。

高齢者の方々とおしゃべりしながら床みがきをしたり、ゲームで笑い転げたり、カレーに舌鼓をうった夏の日の体験でした。

核家族が多くなり、一緒に生活する機会が少なく交流がもてないまま大人に成長する現在。小学生を対象にした『高齢者施設めぐり』は、施設の利用者の方々とのふれあいを目的にしたボランティアです。

このあったかかった手の温もりや優しさが子ども達一人ひとりの胸の中にいつまでも残っていることでしょう。みんなの笑顔、輝いていたよ！

(K)

おだがいさま

第17号

平成20年7月15日発行

発行部数 49,500部

編集・発行

社会福祉法人 鶴岡市社会福祉協議会

鶴岡市西新斎町14-26

TEL 24-0053 FAX 23-9110

ホームページ <http://www.shk01.jp/>

藤島福祉センター TEL 64-3100

羽黒福祉センター TEL 62-4534

櫛引福祉センター TEL 57-5300

朝日福祉センター TEL 53-2795

温海福祉センター TEL 43-3266

この広報誌は、赤い羽根募金の配分を受けて発行しています。